

【OCGとインドネシア・マカッサル市と合意文書 離島事業で業務協力】



離島事業で業務協力
OCGとインドネシア・
マカッサル市と合意文書

オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCG）は11日、インドネシア南スラウェシ州のマカッサル市と、離島事業の業務協力に向けた合意

文書（LOI）を結んだ。調印式には同社の亀岡悠平ジャカルタ事務所副所長が出席し、同市のモ・ラムタン・ポマント市長と文書を取り交わした。写真。

同社は、同州の離島に再生可能エネルギーを電源としたコールドチェーン設備を導入、離島の電化と水産業の発展を促進する事業の展開を計画している。今回のLOIは、この事業に両者が協力することを確認するもので、事業実施の重要な第一歩となる。今後、具体的な事項を定める覚書（MOU）を取り交わす予定だ。

同社は、マカッサル市が所属する南スラウェシ州で2008年から「ハサヌディン大工学学部整備事業」に携わるなど、同地域と親密な関係を築いてきた。今回の離島の電化と水産業の発展を促進する事業は、同国の離島が抱える諸課題を解決するもので、マカッサル市との関係をさらに強固にし、地域の発展に貢献していく。